

路面プロファイリングシステム L C M S

道路の劣化・損傷状況を効率的に検出、3次元点群データも取得

当社は、I C T 機器によって取得される3次元点群データを活用することで、インフラの調査・計画・設計・維持管理における生産性向上や建設D X（デジタルトランスフォーメーション）の推進に取り組んでいます。具体的には、国内有数の精度を誇る3次元移動式レーザー計測システムM M Sや、M M Sを搭載した路面プロファイリングシステムL C M Sを活用することで、インフラのストックサイクルにおける高度化や効率化に取り組んでいます。

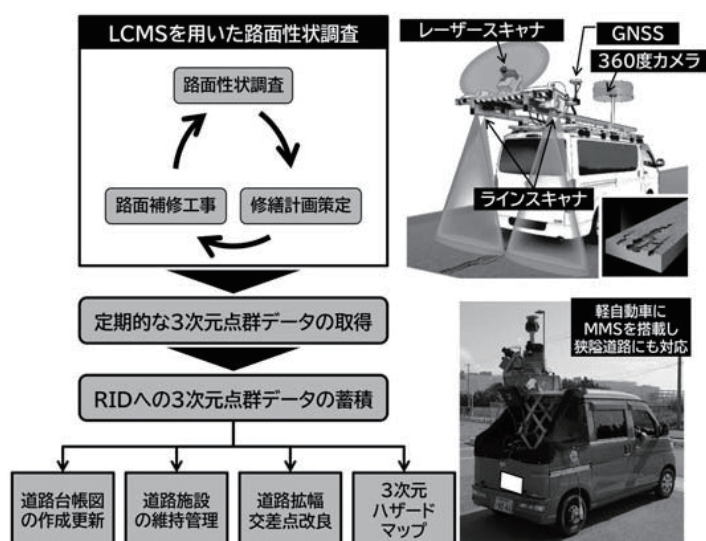
当社のL C M Sは、一般財団法人土木研究センターより認証を受けており、従来までの路面性状測定車による

点検と同程度の精度・コストで舗装の劣化・損傷を検出できることを実証しており、既に総距離1万kmに及ぶ計測実績を保有しています。さらに、L C M SにはM M Sと同様のレーザースキャナを搭載しているため、路面性状調査と同時に道路周辺の3次元点群データを取得でき、従来までは別業務として実施していた道路台帳整備・道路拡幅／交差点改良などに必要な一般測量へ流用することで、効率的な事業推進が可能となります。

また、このようにして収集した3次元点群データは、弊社が開発したR I D (Road Infrastructure Database) に集積することで、専用ソフトを用いることなくW E B 上で表示・計測・ダウンロードなどを行うことができるプラットフォームとして整備しており、国土交通省が推進している防災ハザードマップの3次元化も実現が容易です。

奈良県香芝市では、このR I Dを活用し、管理道路全体の87%を網羅する道路延長270km分のデータを集積し、R I DをオープンデータとしてW E B 上で一般公開することで、不動産・介護・救命救急などの多方面での有効活用が進められています。

一方、森林内や施設内などのG N S S（全球測位衛星システム）環境の悪い個所や自動車の走行調査が不可能な場所では、S L A M技術（Simultaneous Localization and Mapping：G N S Sを利用しない自己位置推定と環境図作成を同時に行う技術）を用いたI C T機器使用することにより、M M Sと同様の3次元点群データを調査員の歩行調査によって取得することも可能です。



未来を見据え このまちをささえる

総合建設コンサルタント



株式会社 日本インシーク

持続可能な社会の実現を目指して

日本インシークは総合建設コンサルタントとして、インフラストックを守り、持続可能な社会を実現するサービスを提供します

つくる,測る,考える

幅広い分野の専門の技術者が課題に取り組む、社会資本整備を担う企業として一丸となりインフラの未来をつくる道を提案します。

日々精進し社会に貢献する

設立以来積み重ねてきた実績を活かし、社会の課題解決を使命とし、時代の要求に応え、常に成長を続けます。

株式会社 日本インシーク

大阪本社 〒541-0054 大阪市中央区南本町三丁目6番14号イトゥビル
TEL 06-6282-0310 FAX 06-6282-0311
東京本社 〒104-0033 東京都中央区新川一丁目23番4号I・Sリバーサイドビル
TEL 03-4214-2000 FAX 03-4214-2001

<https://www.insiek.co.jp/>

